Ⅵ 評　価

外部評価

評価実施者
沖縄国際大学名誉教授
宮城　邦治

評　価

カラフルな表紙は今の沖縄の海だろうか？それとも古き沖縄の海だろうか？そんな疑問の中で報告書のページを開きました。この数年、猛暑などの気象現象は明らかに地球の温暖化を私たちに体感させています。その大きな要因が大気中に放出される二酸化炭素であることは自明です。そして、最も負の影響を受けているのは生命が誕生した広大な海洋です。今、瀕死の地球環境を救うには、いかに二酸化炭素の排出量を減少させるかが重要です。

貴報告書ではエネルギーなどの資源投入量と環境負荷量をマテリアルバランスとして可視化しています。今年度の総エネルギーの投入量は前年比の 90.9%と減少していることから、二酸化炭素の総排出量も前年比の 86.9% と大幅に減少しています。個別的には電力と都市ガスの消費量も前年比でそれぞれ減少していますが、A 重油消費量に伴う硫黄酸化物の排出量は大幅な増加となっており、その要因の解析が必要です。他方、水資源や複写機用紙などは前年比で、その投入量が減少しており、マテリアルバランスから見える貴大学の真摯な取組みと対策は大いに評価できるものです。

学生委員会は「第 19 回環境マネジメント全国学生大会」を開催するなど、その活動はめざましく、学生委員会のメンバーが作成したカラフルな表紙は、未来永劫に残る沖縄の海だと理解しました。（了）

内部評価

評価実施者
工学部　工学科　電気システム工学コース
（地域創生研究センター長）
教授　千住　智信

評　価

今回発行された琉球大学の 2025 年度環境報告書に関して内部評価を実施した。Ⅱ章の大学概要では、法人情報、法人組織、キャンパスマップ等が記載されており、沖縄県に散らばって存在する全ての施設を三次元図面で分かりやすく示されている。與那フィールドは私もこれまで訪問したことが無いが、上空写真も示されており、施設の全景が確認できる。

Ⅲ章の環境負荷の章では、1 年間で利用された消費電力、都市ガス、A 重油の熱換算総エネルギー投入量と全学の活動に伴う CO_2 排出、硫黄酸化物、下水、一般廃棄物、化学薬品廃棄量がそれぞれ示されている。各種投入エネルギー量と各種排出量が示され、さらに前年比の増減率が表示されていることで、活動の状況が一目で理解される。

Ⅳ章では、環境活動の概要が示されており、年度目標と達成状況がまとめて表記され、環境報告書に記載された環境活動の取組詳細の該当頁が一目で確認されることは工夫されている点である。

Ⅴ章の環境関連法等の順守に関する情報提供は、法人運営上重要な事項であることから構成員への周知は非常に重要である。Ⅴ -2-4 では、学内の環境法令順守の取組状況が記載されており、学内外に向けた重要な情報公開であるといえる。今後も環境法令順守に向けた活動を確実に推進されることを希望する。